

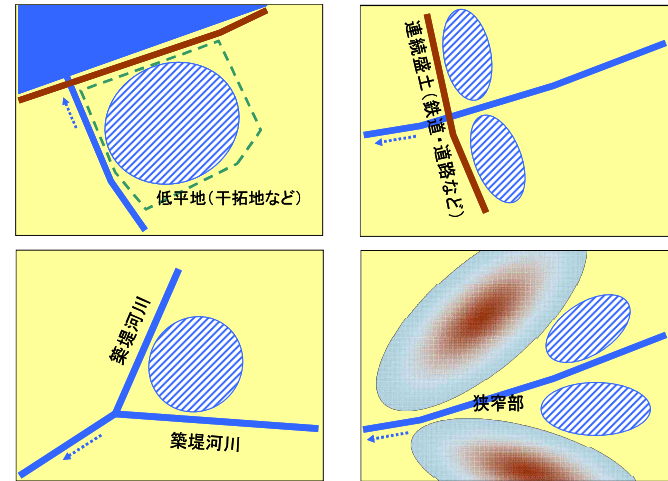
流域治水政策が必要な理由

②

半永久的に水害リスクの残る場所があること

半永久的に水害リスクが残る箇所

下図に示す【くぼみ】や【せき止められている】ところは、河川整備の進捗にかかわらず水が集中する。



滋賀県「開発行為に関する技術基準」から抜粋

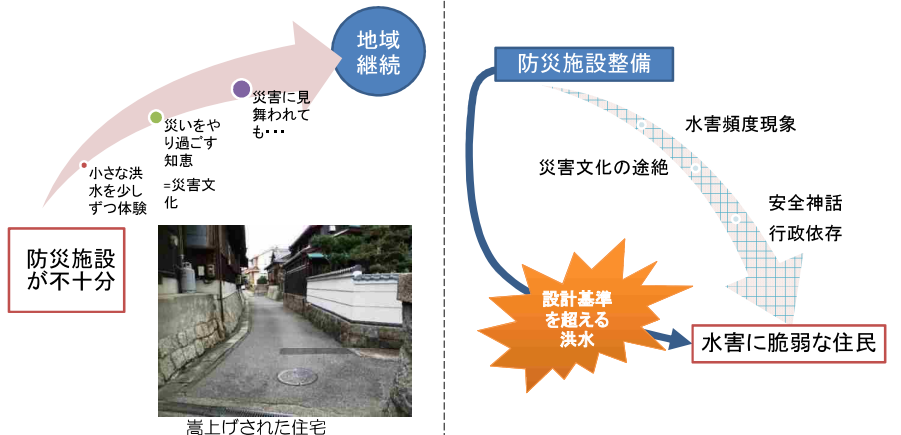
流域治水政策が必要な理由

③

地域の水害に対する知恵を守らなければならないこと

かつては...

現在は...



「災いをやり過ごす知恵」=災害文化により地域が継続

「人為的に作られた安全が高まる、人間側の弱さが高まる」問題が発生

先人の知恵(災害文化)をリバイバルして制度化
滋賀県流域治水条例

先人の知恵：特性に応じた土地利用 24



先人の知恵：かさ上げした住宅 25



霞堤内での宅地開発 26



- 霞堤内の宅地開発
- 現行治水制度、都市計画制度では必ずしも否定されるものではない。
- 霞堤により氾濫流が誘導される箇所(自然遊水地)で宅地開発が進められている。
- 結果として、周辺の水田よりも宅地での水害リスクが高い地域になってしまう。



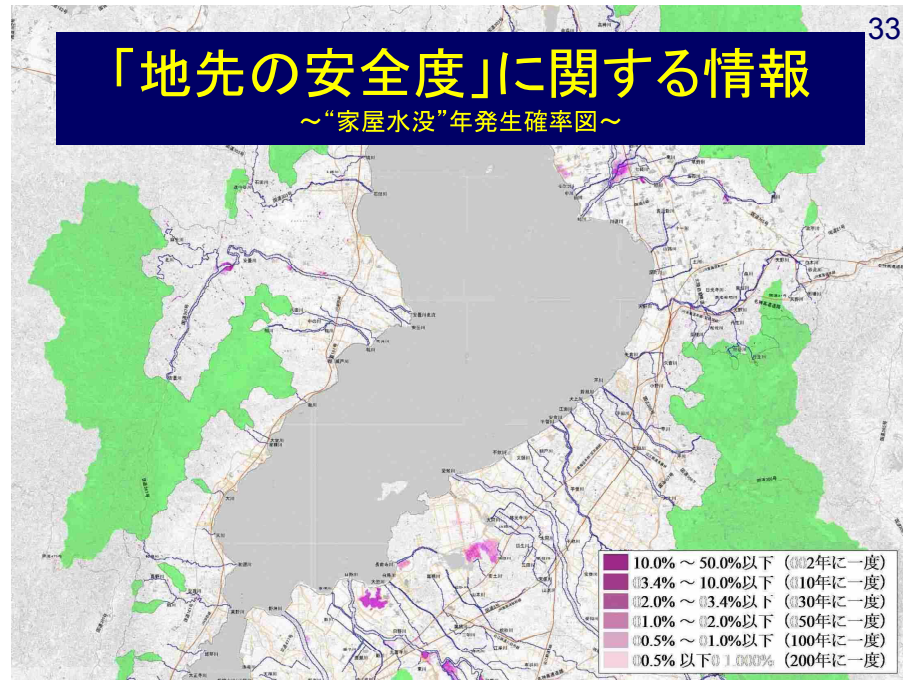
流域治水条例

↓

きっかけは、地先の安全度

↓

水害で命が失われる前に
取り組みを進める。



暮らしの舞台“地先”における安全度

～「地先の安全度」を用いたリスク評価～(全国初。平成24年9月公表)

右図は、当該地点に一般家屋がある場合に、

- ① 家屋流失が200年に1度程度、
- ② 家屋水没が200年に1度程度、
- ③ 床上浸水が50年に1度程度、
- ④ 床下浸水が10年に1度程度、

の頻度で発生することを意味する。

1/2 (0.500)	年発生確率	④			
1/10 (0.100)			③		
1/30 (0.033)				②	
1/50 (0.020)					①
1/100 (0.010)					
1/200 (0.005)	...				

さまざまな規模の外力

被害の種類(浸水深・流体力)			
床下浸水	床上浸水	家屋水没	家屋流失
0.1m < h	0.5m ≤ h	h ≥ 3m	u ² h ≥ 2.5m ³ /s ²

「地先の安全度」とは、場所ごとに覚悟しておく必要のある“水害リスク”なんだ!

大河川だけではなく、身近な水路のはん濫も考慮

一級河川A川 治水安全度 1/30

水路 治水安全度 1/2

下水道(雨水) 治水安全度 1/10

農業用排水路 治水安全度 1/5

二級河川B川 治水安全度 1/10

滋賀県防災情報マップ(水害・土砂災害・地震)

<http://shiga-bousai.jp/dmap/top/index>

滋賀県防災情報マップ

水害リスクマップ

地先の安全度マップ

200年に一度の大雨(時雨量131mm程度の雨が降った場合)

100年に一度の大雨(時雨量85mm程度の雨が降った場合)

50年に一度の大雨(時雨量50mm程度の雨が降った場合)

大雨が降った場合に想定される浸水深さ

最大浸水深度

2階軒下 5.0m

1階軒下 2.0m

1階床下 0.5m

浸水 未測

階別浸水

最大浸水深度

大雨が降った場合に想定される浸水深さ

水が溜まりやすい場所

地先の安全度マップの凡例

200年に一度の大雨(時雨量131mm程度の雨が降った場合)

5.0m

4.0m

3.0m

2.0m

1.0m

0.5m未満

1階床下浸水

2階床上

1階床上

2階床下

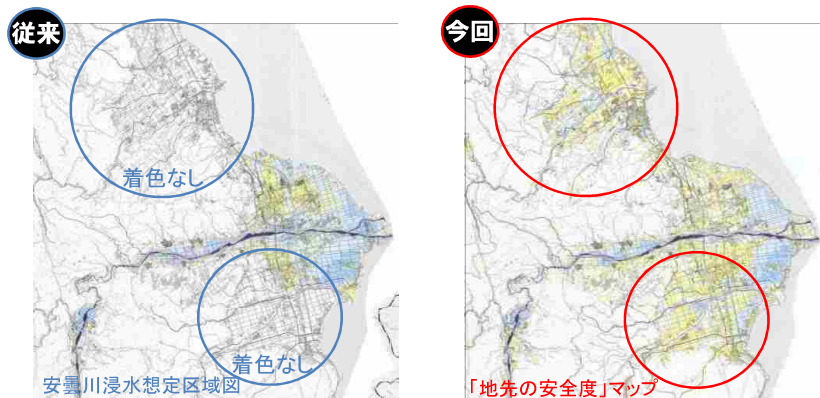
1階床下

住居1軒1軒の詳細なレベルまで拡大して確認することができるよ!

水防法に基づく浸水想定との違い ³⁶

～大河川からのはん濫だけでなく、身近な小河川や水路からのはん濫も～

- 水防法に基づく浸水想定 ー対象とする大河川からのはん濫を想定
- 地先の安全度マップ ー大河川だけでなく、小河川や主な水路からのはん濫も想定



滋賀県における浸水被害の特徴 ³⁹

【Ⅰ 大雨直後】 まちなか水路 小河川の氾濫	【Ⅱ 大雨後】 中大河川の氾濫	【Ⅲ 約1日後】 琵琶湖水位の上昇
<p>大雨が降り続く→河川や内水がはん濫</p> <p>身近な河川などから水があふれ出し、小規模な浸水被害が発生するおそれがあります。</p>	<p>大規模な河川がはん濫し、甚大な浸水被害が発生するおそれがあります。</p>	<p>さらに雨が降り続く→琵琶湖がはん濫</p> <p>琵琶湖の水位が上昇し、湖岸付近の浸水が長い時間続くおそれがあります。</p>
<p>身近な水路の氾濫も考慮しているのは、滋賀県だけ！</p>	<p>浸水想定区域図 (中大河川ごと) 100年確率降雨</p>	<p>琵琶湖浸水想定区域図 観測史上最大降雨 (明治29年豪雨)</p>
<p>地先の安全度マップ (最大浸水深図) 10年確率・100年確率・200年確率降雨</p>		<p>※実現象をイメージして、リスク情報を活用することが重要</p>